

カトリック広島教区 2020年度社会への チャレンジ —いのち・神の武器で戦う—

時は空間にまさる

- 福音の喜び 222～
- 私たちは、各瞬間と時—私たちが魅了する究極の目的地である未来へと開かれた理想郷、すなわちより広い地平—による照らしとの間の緊張関係で生きている。
- 大事なことは、早急に結果を出すことを迫らず、長期的な視野で取り組んでいくこと。充満と限界の間の緊張を受け入れつつ、時を優先するようという招き。
- 現代の大きな誘惑、特に社会的・政治的な活動によく見られるもの（罪）は、権力が及ぶ空間を優先させること。
- すぐ目に見える結果を求めず、長い視野で、善いものだと思えることを始めていくこと。
- 社会の中に新たな動きを生み出す行為と、それを促進させる他者や他のグループとの関わりを優先していくこと。



時は空間にまざる



- グアルディーニ
- 「時代の価値を正しく測りうる尺度は、その時代において、時代の特質と可能性に即応した人間的存在の意匠を十全に開き出したか、それと同等の意匠を十全に実現したか、という程度である。」

『教皇フランシスコとの対話』 p. 85

- 『失敗の限もなく、忍れぬ』を鍛え、時に委ねることです。本たまえのあり、それが委ねることです。『失敗の限もなく、忍れぬ』を鍛え、時に委ねることです。本たまえのあり、それが委ねることです。『失敗の限もなく、忍れぬ』を鍛え、時に委ねることです。本たまえのあり、それが委ねることです。
- 近道ばかりを求めているか？長方形の縦と横を通るのではなく、斜めに突っ切るのを選んでいないか。

イエスは喩えを示して仰せになった。

「天の国は一粒の芥子種に似ている。ある人がそれを取って畑に蒔いた。それはどんな種よりも小さいが、生長すると、どんな野菜よりも大きくなり、そして、空の鳥が来て、その枝に巣を作るほどの木になる。」

問い

長い時間をかけながらも、平和のために、神の国のためにしていきたいことがあるか。

今たずさわっているもの、あるいはこれから始めたいことの10年後は、どんな木に生長していてほしいか。

社会の中に働く「空間を優先させる」誘惑はどんなものがあるだろうか。



PARABLE OF THE MUSTARD SEED. MARK 4:30-32. JAN LUYKEN

一致は対立（葛藤）にまさる Unity is greater than Conflict

- 「『福音の喜び』 226～
- 対立は、引き受けなければならないもの。しかし、その中に閉じ込められているだけならば、物事を見通す力を失い、地平を制限してしまい、現実そのものが断片化されたままになります。対立する局面にとどまるならば、現実の深い一致の感覚を失ってしまう。



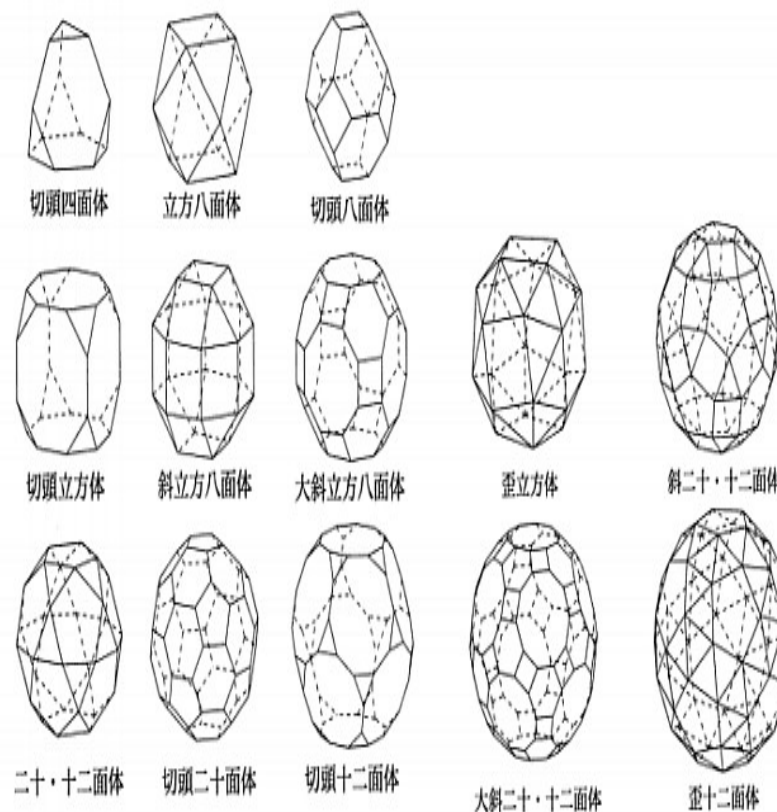
- 対立を前にしての最善の道は、対立に耐えてそれを解決し、新しい道のりの連なりへと、それを変貌させること。
- 違いを残したまま、交わりを広げることが可能となる。
- 「対立の表面からずっと深いところまで入っていき、尊厳への深い敬意をもって他者に目を向ける気高い人だけが、それを可能にする。

一致は対立にまさる

『橋をつくるために 現代世界の諸問題をめぐるための対話』より

私たちは一緒に同じ道を行くのです。
ヘーゲル的な観念論的ジンテーゼに至る
ことはないでしょう。それはすべきでは
なく、常に何かを壊してします。 P.31

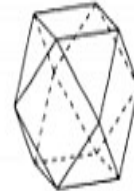
- 政治をするということは、私たちが解決できない緊張を受け入れるということです。



- グローバリゼーションは、多面体。全ての天は結ばれているけれども。。。固有のアイデンティティーとの間の緊張関係を追求すること。 P. 32
- 多面体に向かって、多様性もアイデンティティーも全て保ちつつー
- 致へと向かっていかないといけません。



切頭四面体



立方八面体



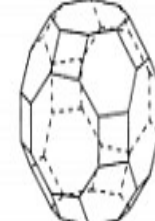
切頭八面体



切頭立方体



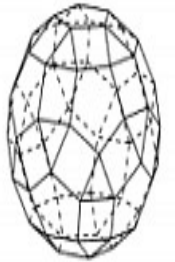
斜立方八面体



大斜立方八面体



歪立方体



斜二十・十二面体



二十・十二面体



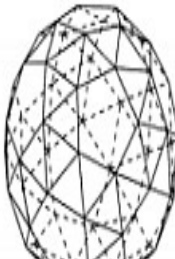
切頭二十面体



切頭十二面体



大斜二十・十二面体



歪十二面体

- 正義と慈しみを両方養うこと
- 聖霊の働きに信頼すること

現代のどこに誘惑があるのか。

(共同体を分裂させようとする力が働いていることに気づく)

- 対立ばかり目につくこと。イデオロギーで分けること。白黒で二元的に分けてしまうこと。分断させようとするゴリアテがないか。

ヨハネ21：1-13

イエスが、「今とった魚を何匹か持ってきなさい」と言われた。シモン・ペトロが船に乗り込んで網を陸に引き上げると、153匹もの大きな魚でいっぱいであった。それほど多く取れたのに、網は破れていなかった。

- 平和の網を投げる時に排除してしまう人がいないか。。。
- 自分に働いてくる分断の誘惑がないか。自分は正義の側に立っているという傲慢がないか。
- 調和へと向かう聖霊の導きに、対立の緊張に耐えながら信頼しているか。



現実には理念（イデオロギー）にまさる

羊の匂いのする羊飼いになってください

• 49 『福音の喜び』

出向いていきましょう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いて行きましょう。。。わたしは出て行ったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会の方が好きです。閉じこもり、自分の安全地帯にしがみつくと気楽さゆえに病んだ教会よりも好きです。



10 いのちは与えることで強められ、孤立と安逸によって

衰えます。事実、いのちをもっとも生かす人は、岸の安全を離れ、他者にいのちを伝えるという使命に情熱を注ぐ人です。

12 この使命は私達に惜しむことなくかかわることを求めます。

- 甘美と慰めに満ちた福音宣教の喜び。
- 悲しみに沈んだ元気のない宣教者、不安に駆り立てられている宣教者ではなく、キリストの喜びを受け取り、その熱意によって生活があかあかと輝いている福音宣教者
- どれほど老いてもその人は「新たな力を得、鷲のように翼を張って登る。走っても弱ることなく、歩いても疲れぬ（イザヤ40:31）」のです。

教会の中のイデオロギー

靈的世俗主義 「すべきイズム」という罪

グノーシス主義 あまりに天使的なイデオロギー

97 この世俗性に陥った人は、上から、その
し遠くから物事を傾けます。兄弟の唱え、いげに
預言者退け、絶えず。異議を指し、下しに
外見閉ざり、罪開かれ、心づき、ま
そ結果、罪開かれ、心づき、ま
対して真に開かれ、心づき、ま

フェニキアの女とイエス（マルコ7：
24-30）

「まず子供たちに満腹するまで食べさせ
よ。子供たちのパンを取って子供に投
げ与えるのはよくないことだ。」



- 経済のイデオロギー

人間の発展を置き去りにした経済の発展

(マルクス主義に翻弄されたアルゼンチンの背景)

- 政治のイデオロギー

隣国への脅威を増長させる政治

軍隊を持たないと普通の国になれないというイデオロギー

- 日常生活のイデオロギー

私たちを現実から離させるさまざまなイデオロギー

- 強くなければならないというイデオロギー
- 弱さを否定するイデオロギー
- どれだけたくさん持っているかというイデオロギー（経済）
- 効率優先のイデオロギー
- わたしをわたしにさせない「should」のイデオロギー
- 隙間を埋めさせようとするイデオロギー
- 傷つかない美しさを求めるイデオロギー
- 無関心のイデオロギー（政治のイデオロギー）
- 失敗を否定するイデオロギー

**「違う。あなたには傷がないから」
by Avilla Therese**



罪深い女がいた。彼女は、イエスがファリサイ派の人の家で食卓についておられることを知ると、香油の入った小さな壺を持ってきて、泣きながらイエスの後ろから、その足元に近寄り、涙でイエスの足をぬらし始め、自分の髪の毛で拭き、その足に接吻して、香油を塗った。

- ところが、イエスを招いたファリサイ派の人々はこれを見て心の中で言った。「もしこの人が預言者なら、自分に触れている女が誰か、またどんな女であるかわかるはずだ。あれは罪深い女なのだ」

黙想のポイント

1. 私を守り現実から離れさせるイデオロギーがないだろうか。
2. 失敗を祝うことの大切さ
3. イエスの背負った汚れは何だったろうか。イエスの傷と重なる
そこから香るイエスの匂い 羊の匂い

罪深い女の赦し (ルカ 7 : 36-50)



全体は部分よりまさる

- 2 3 4 グローバリゼーションとローカリゼーション 日常的な狭量さに陥らないよう、地球規模の側面に注意を向けなければなりません。
両者を併せ持つことが大事。
- 全体は部分を超えるものです。単なる部分の総体ではありません。
- 「狭い範囲で、手の届くところで、けれども広い視野を持って働くというのを包み隠さずに、自らの個性を大切に、アイデンティティを包み隠さずに、温かい気持で何らかの共同の体となる人自身の成長のためには、新たな刺激を受けるのです。」
- 福音は全体を膨らませるパン種であり、山上で輝いてすべての人を照らす都です。

部分に閉じこもろうとする傾向

日本は特にその傾向が強い

- ヒューマンライツの国際的な基準に追いついてないし、追いつこうともしない。
- ナショナリズムの強まり
(ギリシャのポリス 政治はあくまで小さい共同体の利益)

教会の中にある狭量さ

- 教会が正しくない態度を取るとき、信者獲得熱にかかります。ところが、信者獲得熱は、そう言ってよいかどうか分かりませんが、カトリック的ではありません。

『橋を作るために』より

多様なアイデンティティが活かされていく全体

- 真のグローバル化は多面体。

アイデンティティを生かして貢献させていく

「あれは、沈黙ではなく対話なんだな。あんたたちにはあんたたちしかできないことがあるよ。」



自分の苦悩が人類の苦悩になるのにまかせなさい

ヘンリ・ナーウェン『心の奥の愛の声』より

…したがって逆説的になるが、癒すとは自分の苦悩から離れて人類の苦しみに就くことなのである。自分の苦悩の特定の事情にばかり目を向けている限り、私たちはすぐに怒り、恨み、復讐心さえ抱きかねない。。。だが本当に苦悩が癒されるのは、自分独自の苦悩が人類苦悩の一部であることを悟ったときである。それを悟れば敵を赦して、ほんとうに情け深い人生に入る余裕ができる。それこそがイエスの道だった。



あなたがたは地の塩、世の光である。

ポイント

塩のイメージを味わう。（溶けながらまわりを生かしていく。）

- あなたはすでに地の塩、世の光なのです。あなたが失ってはならない大切な自分は何ですか。
- 「壁を打ち壊して、自分の心を人の顔と名前でいっぱいにするれば、わたしたちは満たされたものとなるのです。」 274

マタイ5：13～

あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味がつけられよう。あなたがたは世の光である。。。あなたの光を人々の前に輝かしなさい。



識別 「今日教会の中で一番問題の一つは識別が不足していることだと思います。」

識別（良心の究明）

- イグナチオはどのような心への働きかけが永遠に繋がるものなのか、どのような誘惑が悪からの囁きなのかを慰めと荒みの間の葛藤の体験を通して会得した。



イエスの神を識別する

誤った神のイメージ（小文字の神）

- 完璧主義の神
- 禁止ばかり多い神
- 条件付きの愛の神
- ミラクルでなんでも解決しちゃう
- ご利益主義

イエスの示した神のイメージ（大文字の神）

- いくくしみ深い神
- 喜びの神
- 私たちに自由を与え、自由を望んでくれる神
- 弱い者、貧しい者、小さいものを選ぶ神
- Yo soy mas Padre!!

感謝すること 祝福を数えること

「幸せになりたいか。それならなぜ
祝福を数えないのか」

助けになる問い drawnか drivenか

Drawn 引き寄せられる感覚 招かれる感覚（よい霊のしるし 慰め）

- 自由、平和、正しさ、そして勇気を感じがある。
- 行動が自分自身の一部になっている感覚、生活に統合されている感じがする。苦しいものであっても、その体験に対して感謝の思いがある。
- 人生が中断と要求というより招きのつながりであると感じる。
- 何かが内側から湧いてくる。心が軽くなり、自由になる。「せねばならない」から「したい」へと変化する。
- 抱えている問題をイエスとの関係の中に運び込むように促される。問題そのものよりも関係性にフォーカスが当たる。その問題が私たちに、とってどのようなものであるのかをイエスに対して話すことができる。
- 痛みを手放すように導かれる。「イエスよ、この人に対してあなたが望む態度が取れますように」と祈れる。

Driven 駆り立てられる感覚 追い立てられる感覚（悪い霊のしるし、すさみ）

- 人をしきりに喜ばせようとしたり、他者から認められないことを恐れること。義務感というだけでなく、抑圧してくるような義務感を感じる。義務が常に重荷である。
- 「これが終わってしまえば嬉しい」という感覚がある。そして実際に終わると重荷が取り外されたような解放感がある。
- 私の心はどこか他のところがあり、毎日の生活をまるで要求と妨げの連続だと感じる。
- 多くの出来事を困難であり、味気ないと感じ、それが終わると、自分の一部にはなっていない感じ。決して体験に対して感謝を感じていない。
- 自分の価値についての感覚の喪失。自分自身を蔑み、他の人について決して言わないような仕方自分についてj考えてしまう。
- 罫に落ち込んだような、どこにも行くところがないような感覚。ぐるぐる回っている。大きなブラックホールの中に入った感覚。（空の墓）
- 心配を増長し、困惑に入り込んでしまう疑問が湧く。

荒みのときの対処法

心が荒んで、よい選びができない時には新たな決心を立てない

- 心が荒んで、よい選びができない時には新たな決心を立てない
- そんな時には休むのも大事
- 心が良い状態の時は有頂天にならず、感謝の心で謙遜に
- 自分の弱点を知っておくこと。
- そこを刺激してくるのはよくな
いものが働いているから、**気**に
しない 笑って吹き飛ばす

聖トマス・アクィナスによる信仰の危機克服の原則



意識の 糾明 をしてみよう

イグナチオの伝統的なやり方

1 感謝しよう。を振り返り、感謝したいことを見わける。自分が選ぶというよりも、自然に心は浮かび上がってくることに注意をとどめる。

2 光を願う。

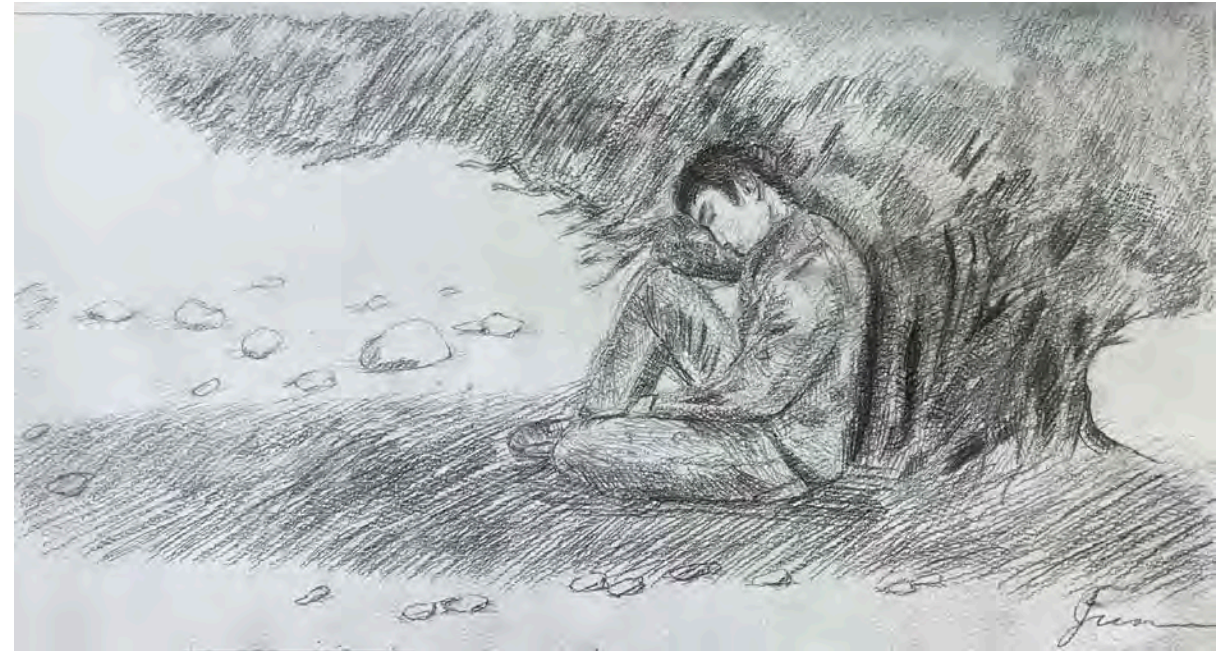
一日を振り返り、感謝したいことを見つけて、自分が選ぶというよりも、自然に心は浮かび上がってくることに注意をとどめる。

3 全ての中に神を見出す

全体的に一日の出来事を振り返り、一特し留神がどの状態に在るか、心を焦らす。その状態をまじり、心を焦らす。その状態をまじり、心を焦らす。

4 謝りたいことがあれば謝り、感謝したいことに感謝

5 明日に向かって助けと導きを願う



主イエスよ、私たちのどんな弱さを見て、それでも、あなたのミッションに協働するよう呼ばれたのですか？

あなたが招いてくださったことに感謝を捧げます、世の終わりまで共にいてくださる約束をどうか忘れないでください。

しばしば私たちは、あなたが共にいてくださることを忘れ、無駄に力を費やしたと落ち込むことがあります。

どうか、私たちの人生となすべきことであって、今日も、明日も、そして来たる未来も、あなたの存在を感じさせてください。

あなたに仕えるために差し出した私たちの人生をあなたの愛で満たしてください。

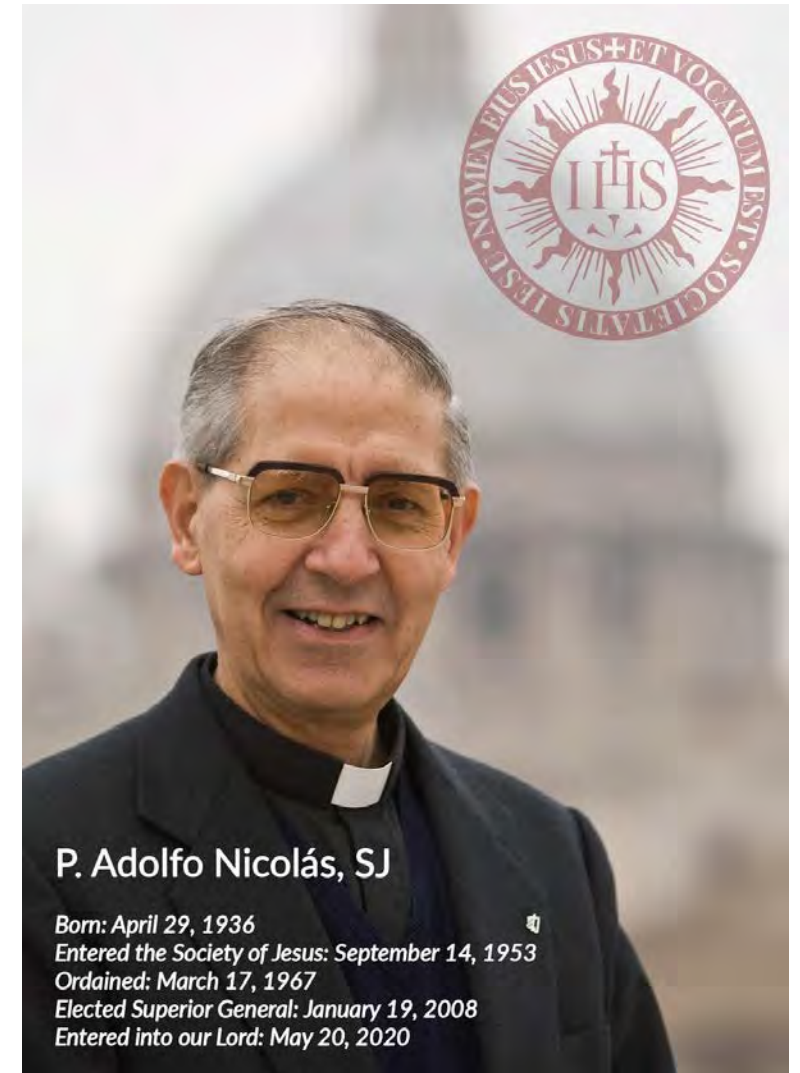
「自分たちのこと」だけにとらわれ、「自分のもの」に執着してしまおう、共感と喜びに欠けた利己主義を私たちから取り去ってください。

私たちの知性と心を照らし、私たちの思い描いたようにことが進まない時でも笑顔でいられますように。

一日の終わりに、毎日の締めくくりに、あなたとの絆を思い起こさせ、日常の中に大いなる喜びと希望を見いだすことができるようお助けください。

私たちは、弱く罪深いものですが、あなたの友なのです。

アーメン



アドルフォ・ニコラス神父